

アメリカの大学におけるコメンズメントスピーチ (三)

ブラシド・ドミンゴ、ブラッドリー・ウィットフォード、ボノ

小笠原 はるの

遠 藤 昌 子

本稿では、現代におけるスピーチ文化の一部を担う三つのコメンズメントスピーチをみていく。二〇〇五年に行われたブラシド・ドミンゴのスピーチ、二〇〇九年のブラッドリー・ウィットフォードのスピーチ、そして二〇〇八年のボノのスピーチである。それぞれのスピーカーの紹介をした上で、スピーチの翻訳を試みる。

一、ブラシド・ドミンゴについて

オペラを中心に活躍するテノール歌手のブラシド・ドミンゴが、二〇〇八年にジュリアード学院で行ったコメンズメントスピーチを紹介するに先立って、彼の経歴を述べる。

オペラという舞台芸術は十六世紀にイタリアで始まったもので、通常三―四幕からなり、台詞なしで歌だけで物語を表現するものである。伝統的な題材としては、神話、シェイクスピア劇、童話などがあり、日本に関するものでは、日本を舞台にしたブッチーニ

の「蝶々夫人」や、日本の昔話「夕鶴」、小説「金閣寺」、古典「源氏物語」など多様な題材の作品が作られているが、日本でのオペラの一般的な認知度は決して高いとはいえないであろう。一方、欧州では多くの国にオペラ劇場が設立され、オペラの音楽祭が開催されるなど、オペラは市民の伝統的な娯楽文化として定着している。

階段を一段一段上るように

ドミンゴは一九四一年にスペインで生まれた^{*1}（写真1）。両親はサルスエラの歌手であったが、サルスエラとは、曲と地の台詞の混じったスペインの伝統的オペレッタであり、日常生活におけるトラブルや恋愛を巡って物語が展開する。両親は海外巡業公演で訪れたメキシコが気に入り、その地でサルスエラの劇団を立ち上げた。そのため一九四八年、ドミンゴは八歳で両親の住むメキシコに移り住むことになった。彼は学校に通いながら、家庭でも音楽に囲まれた生活をおくり、個人レッスンでピアノを習い、両親の劇団で子役を務めるなど音楽と舞台の経験を積んでいた。自伝では、当時の経験を次のように語っている。

私は小さい頃から劇場での仕事の基本を学んだ。オーケストラリハーサルや舞台稽古を見学し、舞台装置係や衣装係が働く姿を見、オーケストラの譜面台に楽譜を並べたりした。両親は興行主でもあったから、私は舞台の厳しい一面も見ていた。^{*2}

こうした環境で育った彼はプロの音楽家を目指して、十四歳でメキシコ国立音楽院に



写真1 ドミンゴの幼年期

*2

ブラシド・ドミンゴ『スター街道まっしぐら』香川檀 秦由紀子訳 音楽の友社 一九八五年、二十三頁

*1

Plácido Domingo Official Home Page.
http://www.modul100v2.de/apfelbiss/inhalt.php?id=552&menu_level=2&id_mnu=848&id_kunden=19
(二〇一〇年七月二十五日取得)

入学して、指揮とピアノを習い、まもなく声楽にも興味を持つようになる。しかし、十六歳になった頃に人生の転機が訪れた。それは、最初の結婚をして、子供が生まれたこととであった。彼は「ある意味で結婚は私のキャリアに拍車をかけた。何しろ妻と子供と自分自身を養うために、とにかく働かなければならなかった」と語るようにドミンゴは、生活のために音楽院をやめ、サルスエラのバリトン歌手としてデビューしたのだった^{*4}（写真2）。この早すぎた結婚は、結局わずか一年で破綻したが、彼は声楽の訓練やプロの歌手としての活動を継続し、音楽仲間との勉強会などに参加し、バレエ、ミュージカル、テレビ、レコードの仕事をするなど、さらに広い範囲での音楽活動を目指し始めた。一九五九年に、彼はオペラ歌手を目指して、メキシコ国立歌劇場のオーディションを受けたが、その際に審査員からバリトンよりもテノール向きの声だと指摘された。テノールはバリトンよりもさらに高音域の男声で、オペラではテノールが主役を演じることが多い。ドミンゴにとってテノールは未経験であったが、その場でテノールの楽曲を初見で歌い、高音域はかすれたにもかかわらず、テノール歌手として採用された。ドミンゴは、将来オペラで活躍するためには、どうしても高音域を発声できるようにする必要があると考えた。

テノール歌手には、二つのタイプがあるといわれる。一つは天性の能力が備わっていて全く努力しないで、声楽の最高音である高音Cが自然に出せるタイプで、もう一つは、努力によって高音域の発声を習得していくタイプである。例えば、ドミンゴのライバルであり友人であるルチアノ・パヴァロッティは前者のタイプであったが、ドミンゴは後者のタイプであった。「私はその高音Cのために戦わなければなりませんでした。一段

* 3 前掲 二十八頁

* 4

Plácido Domingo Official Home Page.

http://www.modul100v2.de/apfel/biss/inhalt.php?id=552&menu_level=2&id_mnu=948&id_kunden=196
(二〇一〇年七月二十五日取得)



写真2 ドミンゴ青年期

一段、階段を上るように自分のものにしていかなければならなかったのです」とロンドンの新聞、サンディ・タイムズ紙のインタビューで語ったように、ドミンゴは練習を重ねテノールの発声法をマスターしていったのであった。^{*5}この時期に発声法と同時に、声のコントロール法や声のトラブルへの対処法も身につけていったが、それは結果として彼の歌手生命を長引かせることになったといえる。

ドミンゴは一九六二年に、現在の妻マルタと再婚するとすぐに、イスラエル歌劇団に活動の場を得た。^{*6}(写真3)。約二年半のイスラエル滞在期間に多くの舞台経験を積んで、その後アメリカに移住し、アメリカで活動を始め、一九六八年には、世界的な歌手が出演するメトロポリタン歌劇場でのデビューが実現した。ドミンゴは長年憧れていた舞台に、やっと立つことが出来たのであった(写真4)。彼は、予定されていた同劇場デビューより前に、急遽代役として出演することになったのだが、日頃から練習を重ねてきていたこともあり、高い評価を得たのだった。そしてそれを皮切りに、イタリアミラノのスカラ座やイギリスのロイヤル・オペラ・ハウスなど世界の名劇場でのオペラ公演を行うようになり、それらの諸公演で成功を収め、人気と名声を手にし、世界のトップテノールの地位に上り詰めていった。このようにドミンゴの成功は順風満帆に見えるが、その陰には、彼のたゆまない努力があったことを元メトロポリタン歌劇場支配人は回顧録で以下のように記している。

ドミンゴは人をひきつける魅力にあふれているので、さほど努力もなく歌えるのだ



写真3 イスラエルオペラ時代

^{*5}

"Brian Appleyard Riteire Moi?", *Sunday Times*,
http://www.placidodomingo.com/inhalt.php?id=874&menu_level=2&id_mnu=1180&id_kunden=196

(1001年十一月十一日取得)

^{*6}

The Israeli Opera-Tel Aviv Performing Arts Center Home Page,
<http://www.israel-opera.co.il/English/CategoryID=220&ArticleID=143> (1010年七月二十五日取得)

ろうと普通のオペラファンは勘違いしてしまいがちだが、そうではなく、公演のために、必死で練習をして、メイクアップ、髪、衣装などがすべて完璧な状態になるように準備する。……中略……それでいながら、公演直前には神経質になり、公演がうまくいくかは神様しだい、神様が助けてくれたら上手くいくと運命論者的なことを言うほどであった。……中略……そして公演後は、たとえ大成功であっても、くつろぐことはせずに、自分の公演のあらゆる瞬間をリプレイして、フレーズやテンポ、または抑揚と色彩をどのように調整すべきかを熟慮し、次の公演がより豊かで、かつ心地よいものになるように心をくだいていた。

このように、常に努力を重ねる姿は、ちょうど青年期にバリトンからテノールの高い音域を獲得するために、「階段を上るような」地道な努力を重ねた日々から継続されてきたものであろう。

休むと錆びる

子供のときから舞台と関わってきたドミンゴであったが、一九六二年から二年半のイスラエル歌劇団在籍中に彼の仕事ぶりの原型が築かれたのではないかと思われる。この期間には、十二作品を演じ、公演回数は約三百回にも上った。日程が詰まっていた十分な休暇期間が与えられず、その上、一つの作品にかけられる練習期間も短いというハードスケジュールであった。しかもリハーサル体制が整わず、ほぼぶっつけ本番での公演を経験したこともあった。しかし、このようなイスラエルでの経験のおかげで、逆に過

* 7

Lincoln Center for the Performing Arts, Wikipedia
http://en.wikipedia.org/wiki/Lincoln_Center_for_the_Performing_Arts (二〇一〇年七月二十五日取得)

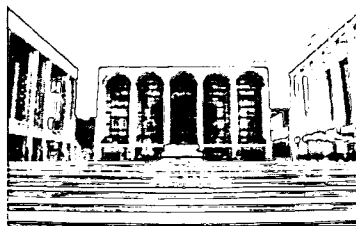


写真4 メトロポリタンオペラハウス外観

* 8

ジョセフ・ウォルビー著、佐藤真理子翻訳監修『史上最強のオペラ』ピア株式会社 二〇〇六年、二四一頁

密な公演スケジュールもこなせるようになり、困難な状況にも対応できるようになったと、後年、彼はふりかえる。その後、世界的な名声を得てからも、自ら過密な公演スケジュールを組むので、周囲は、健康を害し声に悪い影響が出ることを心配した。しかし、ドミンゴはそのような周りの声には耳を貸さず「私の場合は歌えば歌うほど声が良く響くようになる」と舞台活動を継続してきた（写真5）。

一九九〇年にドミンゴは、ほぼ同年代のルチアノ・パヴァロッティ、ホセ・カレーラスと共に三大テノールを結成した（写真6）^{*10}。結成の目的の一つは、白血病から回復したカレーラスが白血病研究のために設立した財団の資金集めを援助することであった。三大テノールは、同年行われたワールドカップ開会式で歌を披露し、それが世界中に放映されたことで、オペラへの関心を一般に広げる役割を果たしたといわれる。その後も、三大テノールの公演は行われたが、現在ではカレーラスは引退し、パヴァロッティは死去し、現役歌手として活動しているのはドミンゴ一人となってしまった。彼は現在まで、四十年以上にもわたり現役歌手としての活動を継続し、百二十二のオペラの演目で主役を演じ、オペラ史上最多記録を打ち立てたのであった。

また、ドミンゴは、オペラの世界ばかりではなく、ポピュラー音楽、ロック音楽など幅広いジャンルの音楽家と世界各地でコラボレーションを行っている。さらには、指揮者や音楽監督としても活動し、近年では若手の育成活動に取り組んでいる（写真7）^{*11}。

二〇一〇年の二月には、東京公演中の六十八歳のドミンゴに癌が発見され、三月に彼はニューヨークで手術を受けた。この闘病を契機に引退がうわさされたが、手術の一ヶ月後、四月には高齢と思えない回復の速さで、イタリアミラノでのオペラ公演に復帰し、

*9

Plácido Domingo Official Home Page,

http://www.modul00v2.de/apfelbiss/inhalt.php?id=552&menu_levele=2&id_mnu=848&id_kunden=196
(二〇一〇年七月二十五日取得)

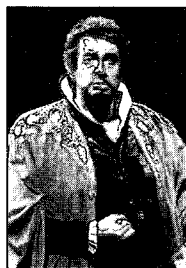


写真5 オペラOthello 出演のドミンゴ

*10

The Three Tenors,

<http://new.music.yahoo.com/three-tenors/.?hl=A8Y5mdgrtINMaywBleD7wx..yIu=X3oDMTEzZT2m5t1BHbvcwMzMARzZWMD3IE2xrtA3RpdGx1BH20aWQDaZWwMDE0>
(二〇一〇年七月二十五日取得)



写真6 三大テノール



写真7 メトロポリタン歌劇場で指揮をするドミンゴ



写真8 2010年手術後のドミンゴ

その後も同年五月から七月のオペラシーズン中だけでも、カタール、ロシア、イギリス、アメリカ、スペインと各国での公演を行った^{*13}。彼の公式ホームページは「休むと錆びる」という彼の人生ポリシーを表す言葉で始まるが、それは彼の生き方そのものであるといえよう。

次には、彼が二〇〇八年にジュリアード学院で博士号を授与される際に行った卒業スピーチの翻訳を試みる。ジュリアード学院は一九〇五年にニューヨーク市に設立された音楽、舞踊、演劇部門を有する高等教育機関であり、多くの優れた人材を輩出したことで知られている。なお、本翻訳はジュリアード学院ホームページに掲載されたドミンゴの二〇〇八年度卒業式スピーチの映像音声を基にしたものである。^{*15}【遠藤】

* 11
Plácido Domingo Official Home Page.
http://www.modul00v2.de/gpfelbiss/inhalt.php?id=552&menu_level=2&id_mnu=848&id_kunden=196
(二〇一〇年七月二十五日取得)

* 12
『ドミンゴ降板の波紋 三大テノール「終幕」か』アエラ、朝日コム、二〇一〇年二月二十五日
<http://www.asahi.com/culture/update/0225/TKY201002240562.html> (二〇一〇年七月二十五日取得)

* 13
アエラ、朝日コム、二〇一〇年四月十三日
<http://www.asahi.com/showbiz/news/RTR201004130047.html?ref=rcb> (二〇一〇年七月二十五日取得)

* 14
Plácido Domingo Official Home Page.
http://www.placidodomingo.com/inhalt.php?id=2752&menu_level=1&id_mnu=2752&id_kunden=196
(二〇一〇年七月二十五日取得)

二、ブラシド・ドミンゴのコメントスピーチ

(二〇〇八年五月二十三日 ジュリアード学院にて)^{*16}

休むな、錆びるな

ブラシド・ドミンゴ

翻訳 遠藤昌子・小笠原はるの

学長、理事長、評議員、教職員、来賓のみなさま、こんにちは^{*17} (写真9、写真10)。

二〇〇八年度卒業生のみなさま、今日の主役はあなたがたです。博士号をいただいた上に、このような素晴らしい場所でスピーチをさせていただけるとは誠に光栄です。ただ、スピーチは苦手です、どのような話をしたらよいか、とまどっています。昨晚ワシントンで公演を終えたばかりで、喉は本調子ではありません。声楽科の学生さんならおわかりでしょう。でも、次の公演は五日後ですから、何かしらみなさんにアドバイスをさせていただくことにしましょう。

スピーチではなく、歌でアドバイスをしてよいなら、みなさんご存知の『トゥーランドット』から「誰も寝てはならぬ」がいいのですが、すでにタイミングを逸しているので、この場では歌いませぬ。寝ずに勉強して卒業試験を乗り切ったみなさんは、ウトウトしたいところでしょうからね。では、別のオペラ『アイーダ』から「勝ちて帰れ」

^{*15}

ジュリアード学院ホームページ
<http://www.julliard.edu/index.php>
(二〇一〇年七月二十五日取得)

^{*16}

Commencement Speech of Plácido Domingo at Julliard College,
http://www.julliard.edu/about/multimedia_gallery/commencement08/commencement.html (二〇一〇年七月二十五日取得)

^{*17}

ジュリアード学院ホームページより
http://www.julliard.edu/about/multimedia_gallery/commencement08/commencement.html (二〇一〇年七月三十一日取得)

^{*18}

ジュリアード学院ホームページより
http://www.julliard.edu/press/kit/photos/Wilson_Res_Hall.html
(二〇一〇年七月三十一日取得)

はどうでしょうか？ これから、オーディションやらコンクールに挑むみなさんの励ましには、ぴったりではないでしょうか。結果がなくても『トゥーランドット』の「泣くな、リュウ」で慰めて差し上げます。ただ、ちょっとやさそつとうまくいかなことがあっても、挫折を経験することで打たれ強くなるもの。卒業してすぐには、仕事をもらえないかもしれませんが、まあ、そんなものです。

実のところ、私が一番苦手なのはオーディションです。オーディションの出来だけで仕事が決まるのだったら、この世界でやってこられませんでした。私の場合も仕方なくオーディションを受けることはありました。しかし、衣装も纏わず、登場人物の雰囲気も出せないまま、突っ立って演じるのは苦手でした。そうはいつでも、このご時世にオーディションは避けられません。どうせ受けるのであれば、準備するに越したことはなし！

さて、ここに来て、オペラを歌って済ますわけにはいきませんね。なぜまた苦手なスピーチを引き受けたのかを考えてみると、それは他でもないみなさんに話すべきことがあるかと思ったからです。音楽であれ、演劇であれ、ダンスであれ、みなさんは、舞台芸術という文化を次の世代につなぐ、非常に重要な存在です。私は常日頃、次世代の音楽家を育てたいと思っていたので、オペラリアという国際オペラコンクールを主催したり、ワシントン・ナショナル・オペラやロサンジェルス・オペラで若手が参加できる公演を始めたのです。それに、アメリカのオペラハウスには、若手による公演がありますので、オペラ歌手を目指す方はそういったものには是非参加してください。

なにしろ、みなさんは、ジュリアードという素晴らしい学校で学んでいます。演



写真9 ジュリアード学院で卒業スピーチをするドミンゴ



写真10 ジュリアード学院リンカーンセンター校舎と学生寮

劇でも、ミュージカルでも、バレエでもオペラでも、公演のプログラムを開いてみれば、トップレベルの出演者にはジュリアード出身がたくさんいます。たとえまだ無名であったとしても、舞台でキラリと光る人がいたら、みなさんの同窓だということが多いのです。そういったすばらしい人材を輩出する学校で学ぶ機会を得られたみなさんは、本当に恵まれているのです。

そのみなさんが、今度は社会に出て、道を拓かなければならない。そう簡単にはいかないでしょう。医学や法律や経営や科学の道を選んでいたら、卒業と同時に仕事は約束されているようなものです。しかし、芸術系のみなさんはそうではない。とりあえず食べていける、ということはどちらかというと珍しいことで、みなさんの中で、卒業してすぐに仕事にありつくことができた人はすこぶる幸運だといっていいでしょう。ほとんどの人はかなりの間、そんな幸運には恵まれないでしょう。でも、みなさんは基本的な訓練は十分に積んできました。私が声を大にしたいのは、どんなときでも、あきらめるなということ。そして仕事がない間こそ、自分を磨くということです。

私ははじめて役をもらう前に、十曲ものオペラを覚えました。とにかく勉強しました。何をするにしろ、身につけておくべきことがあります。ダンサーなら、あらゆる振り付けを知っておくこと。ジェローム・ロビンズに、バランシーンに、クラコウスキーの振り付けは外せないでしょう。オペラ歌手は、できるだけ譜読みをして、映像や音源から学ぶのです。しっかりと準備した人ほどチャンスはめぐってきます。同じことが、演劇にもいえます。古典劇から始めて、現代劇も知っておく。古典をやれといわれたときにもできるように、何でもやっておくべきです。

私はそうやってここまでできました。オペラを依頼されたときには、すでに譜読みを終えていて、すぐに歌うことができたのです。いつでも出来るように、準備しておくことが大切です。みなさんは、この素晴らしいジュリアードで学んできたのですから、次は世界に飛び出して夢をつかむ番です。ただ、先ほどいったように、いつもうまくいくわけではありません。日々の努力がものをいいます。天才に生まれつかなくても、練習すれば一流になれるのです。何をしようと、一人前になりたければ努力を積み重ねることです。アメリカはチャンスに恵まれた国ですが、簡単に成功できるわけではなく、競争は熾烈です。たくさんの人たちがオーディションに臨みますが、選ばれるのはとても難しいことなのです。とにかく、日々の努力の大切さをみなさんにわかってもらえれば幸いです。

さて、私自身について少しお話したいと思います。私の両親はスペインの伝統的な音楽劇サルスエラの歌手でして、メキシコが気に入って、そこで劇団を立ち上げました。私は八歳でメキシコに呼び寄せられ、メキシコシティの音楽学校に入学し、指揮とピアノを勉強して、両親の劇団で子役が必要なきときは、かり出されました。セリフが一言のときもありました。ピアノをやっていたことは、劇団に役立ったようです。劇団のオーケストラは小編成だったので、リハーサルでピアノを弾くこともありました。こうしているうちに、さらに舞台にのめり込み、情熱を燃やすようになったのです。そういった情熱が、みなさんにも一番大切なものではないかと思うのです。

私はサルスエラではバリトンのパートを歌っていました。バリトンの歌手の方が良い役を演じることが多く、美しい曲といえば、バリトンのために書かれているものでした。

しかし、通っていた音楽学校では、テノールを歌うように勧められました。私の声質は、バリトンではなく、テノールだといわれたのです。ですから、一つの音が出せたら、次の高い音を出してといったふうに、階段をのぼるように発声練習をしました。そして、やっといわゆる高音Cが出るようになったのです。高音のCといっても、いろいろありまして、それは最高音のCの音を指しているのですが、一般的には、あらゆる高音はCだと思いつまれているようですね。まあ、それもいいのではないのでしょうか。楽曲の最後の盛り上がりが、Aのフラットでも、Aでも、Gでもいいのです。そのようなときでも、高音のCが見事だといってもらっていいのです。とにかく、テノールであれば、高音のCの音を出せるようにしなければなりません。

さて、妻のマルタはすでにメキシコでソプラノ歌手として成功をおさめていました。私たちは、舞台での経験を積むために、イスラエル・オペラと契約を結びました。希望に燃えて、私たちはありとあらゆるものをトランクに詰め込んで、テルアビブに発送しましたが、ハドソン川の港湾ストライキのため、荷物はそこで止められてしまいました。そんなわけで、イスラエルでの最初の半年は、まさに着の身着のままでした。出発前にあつらえた『ラ・ボエーム』や『ファウスト』などの衣装も届かないままでした。しかたなく最初の三ヶ月は借り物の衣装で我慢しなければならず、ひどく気落ちしました。しかし、なんといっても私たちにとっては初仕事で新婚生活でしたから、なんでも楽しいと思いました。

イスラエルでの仕事はハードで、二年半の滞在中にこなした公演は二百八十回にもなります。ときには連日違うオペラを歌わなければならず、大変でした。喉がつぶれる

か、逆に鍛え上げられるか、一か八かでした。幸運なことに、そのあとずっと歌い続けてこられました。このような過酷なスケジュールをこなしたことが、歌手としての土台になったのだと思います。舞台上立つ力が養われたのです。さらに、礼儀を身につけ、時間の管理ができるようになりました。

時間があれば、私の家でメキシコ人のバリトン歌手とお互いの出来を遠慮なくいいました。このように学ぶことは、仕事をする上でいつでも必要なのです。みなさんもジュリアードで経験したでしょうが、互いに学び合うことが、一番の勉強になります。稽古を見てもらって、アドバイスをもらうことは、ベテランになっても、非常に大切なことです。アーティストとして、常に学びの姿勢を持つことが大事なのです。私もいつも楽譜を抱え、譜読みを欠かしません。六十七歳になった今もまだ学生のような気持ちで学んでいます。才能に頼るのではなく、頭と身体を鍛えることを忘れてはいけません。

さらに、私は歌っていても、指揮をしていても、教えていても、楽しみながら音楽にたずさわっています。音楽を心から愛し、プロの道を究めることも楽しいはずですよ。たとえ食べていくための仕事でも、心から舞台を楽しむことが大切です。食べるためだけの仕事だと思ったとたん、もう負けです。また、常に心に留めておいてほしいのは、お客様に感謝し、お客様を大切にすることです。お客様あつての私たちです。

もう一つ大事なことがあります。あなたが歌手なら指揮者のいうことを聞かなければなりません。勝手なことをいう指揮者が多いのですが、それでも上手くやる方法があります。指揮者の注文に対して「テンポが早すぎます、とか、遅すぎます。それならこう

したら…」と逆うようなことをいってはいけません。それより「おっしゃることはよくわかりますが、私にはうまく出来ないのです、どうか教えてください」と教えを乞うのです。そうすれば、いい関係が築けます。もし、かたくなに逆らうばかりなら、指揮者も意地になってしまい、うまくいかないだけです。

演劇でも監督とうまくやっていくことです。役者が監督に逆らったら、こんな奴は使えないと言いつらされることになります。自分らしく演じることは大切で、一人一人が個性を生かすべきですが、なかなかそうもいきません。ダンスの世界では、振り付け師のいうことを聞くべきです。要求に応じて、速いテンポで踊ったりしなければならず、ダンスは一番難しそうにみえます。また、バレエの世界でも振り付けをよく勉強しなければいけません。「ここは、ああなっていて、昔はこうで、バリシニコフはこうで、マーゴ・フォンテインはああで、それから誰それは…」昔の名手のように踊るように注文されるかもしれません。ダンサー修行ほど大変なものはありません。ダンスをしている人を本当に尊敬するばかりです。ピアニストであれ、バイオリニストであれ、朝から晩までの練習が求められます。本当にすごいことなのです。信じられないくらい長い時間です。体力的にも大変なことでしょう。

スピーチを終える前に、もう一度、常に準備をしておくことの大切さについてお話しておこうと思います。四十年前の九月二十八日、メトロポリタンでのリハーサルを終えて帰宅したことです。その日の午後は『トゥーランドット』のリハーサル、前の晩はニューヨーク・シティ・オペラで『イル・タバッロ』の公演、その前の晩は『パリ・アッチ』のリハーサルでした。忙しい日々を送っていたわけです。十月二日にはメトロ

ポリタン・デビューを控えていました。そのころ、ニュージャージー州のティネックに住んでいたのですが、家に帰ったとたん電話が鳴りました。当時のメトロポリタン・オペラの総監督、ルドルフ・ビングからでした。「ドミンゴ、すぐに戻ってこい。フランコ・コレリリが出られなくなった。君に代役を頼みたい」コレリリは私の憧れでした。その日はいったん家でシャワーを浴びてから、再び劇場に行き、彼の公演を観る予定でした。ところが、その日、舞台に立つのが私になり、それが私のメトロポリタンのデビューとなってしまったのです。

そのころ、妻は出産を控えていて、ちょうどその日、私の母と一緒にメイシーズかどこかのデパートへ出産用品を揃えにいました。それで、妻と母は私のデビューを見に来ることができなかったのです。そこに座っているのが息子のアルヴァロですが、十月十一日生まれなので、まさにデビューしてすぐに生まれたことになりましたね。

まあ、そんなわけで、私は父を連れて、車で出発しました。ウエストサイド通りを抜けて、ブロードウェイにさしかかりました。蒸し暑い晩でしたので、窓を全開にし、ウォーミングアップのために大声で『アドリアーナ・ルクヴール』を歌っていました。その日の相手役は、名ソプラノ歌手のレナータ・デバルティだったので、一生懸命でした。ふと横を見ると、隣の車の人がこちらを見て笑っています。信号待ちのとき、私は声をかけました。

「なんか楽しいこともあるの?」

「メトロポリタンへコレリリを聴きにいくの」

「今日はコレリリじゃなくて、僕が出るよ。楽しみにしてて」

こういうことは誰にだって起こります。ですから準備をしておくことです。「まだまだ先のことだ」などと思わないことです。急に代役を頼まれることだってあるのです。ですからいつ声がかかってもいいように、出演者並みに入念な準備をしておくのです。

今日はみなさんにとって喜ばしい日です。ここからみなさんの第一歩が始まるのです。自分のすべてを捧げれば、きっと得られるものがあるはずです。ちっぽけなホールでも、野外でも、どんなところでも、宗教や民族や職業が異なる人々の前で舞台に立てるということは素晴らしいことです。演じる側も見ている側も一体感を味わえる。そんな風にな人の心をつなぐ仕事ができるのは、幸せなことです。誰かが幸せになってくれると、その幸せな気持ち伝わって、自分も幸せになります。病床で、あなたの歌を慰めにする人がいるかもしれません。人のためになること、人が喜ぶことを心の底からするのは、あなたのレコードを入院中に聴いた人がこういうかもしれない。『半年間の入院中、ずっとあなたの歌を聴いていました。おかげで、私は病気を乗り越えられました』きっと、忘れられない言葉となるでしょう。

みなさんが素晴らしい経験をしていくことをお祈りしています。どうか楽しみながら人生を送ってください。将来何を目指そうと、それがどんなに困難であろうと、まず楽しんでやるのが大切です。みなさんは恵まれた立場にあるということを忘れないでください。ありがとうございました。

三、ブラッドリー・ウィットフォードについて

ブラッドリー・ウィットフォードはアメリカの俳優である。日本における知名度は高くないが、アメリカにおいては人気のある実力俳優であり、また活発な民主党支援活動や慈善事業などでも知られる。彼のスピーチを紹介するにあたり、その経歴を簡単に述べる。

迷わずに俳優の道をあゐいて

一九五九年に、ウィットフォードはアメリカのウイスコンシン州で、クエーカー教徒の両親の元に五人兄弟の末子として生まれた。高校時代に禁煙キャンペーンを呼びかける広報番組に出演したことがきっかけで、演劇の道を志すようになり、ウェズリアン大学で文学と演劇を学び、さらにはニューヨークのジュリアード学院の演劇部門で修士号を取得した。大学院を修了して数ヶ月後にはオフブロードウェイの舞台に立ち、『ヘンリー八世』、『コリオレイナス』などのシェイクスピア劇や現代演劇に出演するなど、舞台俳優としての経験を積んでいた(写真11、12)。

一九八七年には舞台に加えて映画へと活動の場を広げていき、数々のコメディ映画に出演した(写真13、14)。やがて、個性的な脇役として、『推定無罪』(一九九〇年)、『フィラデルフィア』(一九九三年)、『依頼人』(一九九四年)、などの作品に出演するようになる。しかし、脇役を演じることが多かったので、依然として知名度は低く、経済

* 19
ディキンソン大学ホームページより
<http://dsc.dixie.edu/shakespeare/henryv5.htm> (二〇一〇年七月三十一日取得)



写真11 一九八三年シェイクスピア劇《ヘンリー八世》に出演するウィットフォード

* 20
スミス大学ホームページより

<http://www.smith.edu/library/libjs/sc/news/ImposingEvidence8.pdf> (二〇一〇年七月三十一日取得)



写真12 一九九一年シェイクスピア劇《コリオレイナス》に出演するウィットフォード

的にも安定しない状態であった。彼が所属するスクリーンアクターズギルドはアメリカのテレビや映画俳優の組合であるが、その会員で十万ドル以上の収入があるのは三％のみで、大半はそれ以下であった。^{*23} 彼は結婚して最初の子供も生まれていて、四十歳を目前にして俳優として芽が出ないことにあせる気持ちもあった。しかし、演技に対する強い情熱をインタビューではこう語っている。

毎日の暮らしには、いつも何かしら決断が必要だ。どうしても良いことだけど、僕は、買い物に行くと、低脂肪乳にしようか、普通の牛乳にしようかってことでさえ、迷ってしまう。でも役者になることに關しては、迷ったことなんて一度もない。役を演じているときの気分は、ちょうど、バッティングセンターで気持ちよくボールを打っている時の気分と同じだ。もっともっとやりたい。楽しいから。バッティングセンターでボールを打つなんて別に重大なことでもないし、試合に出ているわけでもない。それでも良い。いつもとても良い気分になれるから。僕が役を演じているときもそんな気持ちになるんだ。^{*24}

この頃から、彼は活動の場をテレビにも広げていこうとした。アメリカではテレビドラマ作品は一シーズン十作以上の連続ものとして制作されるので、慎重なテスト過程を経る。最初に、ドラマの企画が作られ、それにしたがって脚本が書かれ、配役が決まると、まず試作品を撮影する。そして、関係者がその試作品を見て、本制作するかを決定するのだ。ウィットフォードも、数作品試作には出演したのだが、多くの場合、試作の

* 21

"Revenge of the Nerds 2 (1984)." Wikipedia.

http://en.wikipedia.org/wiki/Revenge_of_the_Nerds_II:_Nerds_in_Paradise (二〇一〇年七月三十一日取得)



写真13 初期の出演作、コメディ映画《ナースの逆襲》

* 22

"Adventures in Babysitting (1987)." Wikipedia.

http://en.wikipedia.org/wiki/Adventures_in_Babysitting (二〇一〇年七月三十一日取得)



写真14 初期の出演作、コメディ映画《ベビーシッターの冒険》

段階で制作中止となり、本制作にいたらなかった。テレビに進出したいという彼の希望に反して、望む仕事を得られない時期が続いた。

しかし、それから間もなく大きなチャンスがやってきた。売れっ子の脚本家がシナリオを担当するテレビドラマ『ホワイトハウス』の企画が持ち上がったのだ。これは、ホワイトハウスを舞台にした政治ドラマであった。民主党選出と設定された有能で高潔な大統領と彼を支えるスタッフが架空の政治問題に対処していくというドラマで、すでに有名俳優が主役に決定していて、夜のゴールデンタイムで放映される予定であった。ウィットフォードは、長年熱心に民主党を支持してきたこともあって、シナリオ草稿を読むとすぐにその作品と自分の役柄が気に入る、この作品への出演を強く希望した。このドラマの脚本家はウィットフォードの演技の実力を高く評価していたので、彼をイメージしながら準主役の大統領補佐官像を描き、制作側に彼の起用を強く働きかけたのだった。

すぐに、制作側によって、ウィットフォードのオーディションが行われた。ウィットフォードは、入念な準備をしてオーディションに臨んだ。彼は、その場で自分の演技力を十分披露することが出来たと思い、審査員の反応もよかったので、オーディション合格を確信した。しかし、結果は不合格であった。夜のゴールデンタイムに全米放送されるテレビドラマの準主役に必要なスター性がないというのであった。制作側から与えられた再度のオーディションにも不合格で、彼が希望した役には別の有名俳優が起用されてしまった。長い経験と演技の実力があっても、仕事を獲得できないことへの彼の落胆は大きかった。しかし、やがて思いがけないことが起こった。キャスティング上で様々な変更がおき、最終的には、彼は自分が望んでいた役を獲得することになったのだった。

* 23

David Whitford, "The Secret life of an Actor," *Esquire*, May 1, 2001.
http://www.esquire.com/features/ESQ0501-MAY_WHITFORD_rev4 (2001年七月三十一日取得)

* 24 前掲、原文英語遠藤訳

ウィットフォードは四十代にして、こうしてようやくチャンスを手にしたのであった。^{*25}

赤絨毯を歩き始めて

ドラマ『ホワイトハウス』は一九九九年に放映が開始された。アメリカでは政治物のドラマはヒットしないといわれていたが、このドラマはそのジinxスを破った。放送直後から比較的裕福な年収十万ドル以上の十八歳から四十九歳の層に人気となり、次第に口コミでその人氣が拡大していった。その理由としては、放映が始まった当時、クリントン大統領の女性問題が話題になっていて大統領の実像への関心が高かったことと、二〇〇〇年が大統領選挙の年だったことがあった。また、実際の大統領選挙でブッシュ大統領が選出されたことに失望した市民が、このドラマの描く高潔な人格で強い指導力を持つ大統領像に希望を見出したことも人気の理由といわれた。翌年に放映された第二シリーズの初回放送は、全米で二千五百万人が視聴し、全米一の高視聴率を記録したのだ。^{*26}こうしてこの番組は、一躍人氣番組となり、放映開始三年後には、優れたドラマに贈られるエミー賞を九部門で受賞し、その翌年には、有能で誠実な人柄の補佐官を演じたウィットフォードが、エミー賞助演男優賞を受賞した(写真15)。^{*27}このドラマは、結局二〇〇六年まで七年に渡って放映されたのであった(写真16)。^{*28}

この番組でウィットフォードは全国的に名前が知られるようになり、それに伴ってインタビュや講演などで政治的発言をする機会が増えていった。熱心な民主党支持者の彼は自分の政治に関する考えを発言できる場が与えられたことを非常に喜んだ。特に注目を集めたのは、二〇〇四年の大統領選挙での反ブッシュテレビキャンペーンであった。

* 25 前掲

* 26

"New shows and Oidies are off and running," *New York Times*, Oct. 1, 2000.

<http://www.nytimes.com/2000/10/11/arts/tv-notes-new-shows-and-oidies-are-off-and-running.html?cp=19&sq=west%20wing%20second%20season%20first%20episode&st=cse> (二〇〇一年七月三十一日取得)

* 27

第五十三回エミー賞授賞式、シネマトゥeday、

<http://cinematoday.jp/gallery/E0000057/bradley-whitford.jpg.html> (二〇〇一年七月三十一日取得)



写真15 2002年エミー賞助演男優賞授賞式にて

* 28

"The West Wing: Series 4," ABC.

そのキャンペーンには彼自身が出演して、自分の名前や職業を述べた上で、「国の財政状況が悪いという理由で、ブッシュ政権は教育予算や高齢者の福祉予算を大幅に削減した。しかし、逆にハリウッドの有名俳優は減税の恩恵を受けた。例えば、僕が払わなければならない税金は十萬ドルも安くなったんだ。だから次の選挙でも、ぜひブッシュに投票しよう」という皮肉たっぷりの反語メッセージを伝えた。^{*29}

また、彼は数々の慈善活動を熱心に行っている。^{*30}二〇〇三年には夫妻（二〇〇九年に離婚）で、『クローズ・オフ・アワ・バック』という慈善活動を始めた。^{*31}これは、芸能人が着用した衣装を寄付してもらい、それをオークションで販売して、子供支援の活動に資金援助するというものである。ウィットフォードがこの活動を開始するきっかけになったのは、アメリカ軍のイラク侵攻開始直後に行われた二〇〇三年のアカデミー賞授賞式であった。

アメリカでは二〇〇一年に同時多発テロ以来、テロへの警戒感が依然として強く、社会不安感が漂い、国民はイラク侵攻を国家の非常事態ととらえていた。そのため、アカデミー賞のようなお祭り騒ぎは自粛しようという機運が高まり、開催するべきかを巡って議論が続けられ、なかなか結論が出ないまま、授賞式の四日前になって開催がやっと決定されたのだった。

そのような状況で開催された授賞式であったが、式場前で車から降り赤絨毯を進むスターたちにマスコミが浴びせた質問は、例年となら変わることがなかった。もっぱら関心を集めたのは、会場のスターたちの着ているドレスやタキシードや靴や髪型であった。ウィットフォードは語る。

<http://www.abc.net.au/cv/westwing/>
(二〇一〇年七月三十一日取得)



写真16 テレビドラマ《ホワイトハウス》共演者とともに

^{*29}
ブラッドリー・ウィットフォード二〇〇四年大統領選挙キャンペーン映像 <http://www.youtube.com/watch?v=ExtVYjRmXys> (二〇一〇年七月三十一日取得)

^{*30}
"Bradley Whitford's Charity Work, Events and Causes." *Look to the Stars: The World of Celebrity Giving*.
<http://www.looktothestars.org/celebrity/325-bradley-whitford>
(二〇一〇年七月三十一日取得)

「妻と僕が、アカデミー賞の授賞式で赤い絨毯の上を進むと、「何を着ているんですか？」って質問だ。こんな国家の非常時にでも、そんなことにしなきゃ興味がないのか？ こんな時でも、芸能人の服装のようなどうでも良いことが話題になるなら、それを利用して子供を支援するための資金集めが出来ると思った」^{*32}

彼は、マスコミや一般市民の関心が、政治や社会情勢よりも、有名人に関する話題であることに、失望しながらも、そこに彼なりの活動の機会を見出し、慈善活動を開始したのであった。設立以来この団体には、七百名以上の有名人が衣装を寄付し、収益となった四百万ドル以上が多種の子供対象慈善活動に使われてきている。

次には、二〇〇四年にウィットフォードがウィスコンシン大学マジンソン校で行ったコメンストスピーチを紹介する。ウィスコンシン大学はマジンソン校を中心として州内各地にキャンパスを持つ大規模大学で総学生数は十六万人である。^{*33}ここで紹介するウィットフォードの卒業スピーチは、内容の素晴らしさで高い評価を得て、タイム誌のアメリカ十大卒業スピーチの一つにも選ばれている。^{*34}【遠藤】

* 31
Clothes off Our Back, <http://www.clothesoffourback.org/> (11010年七月三十一日取得)

* 32
Lindsey Benjamin, "Web Extra: 'West Wings' Bradley Whitford talks politics at AU," *The GW Hatchet (An Independent Student Newspaper Serving The George Washington University)*, <http://media.www.gwhatchet.com/media/storage/paper332/news/2006/02/16/Arts/Web-Extra.west.Wings.Bradley.Whitford.Talks.Politics.At.Au-1615567-page2.shtml> (11010年七月三十一日取得)

* 33
ウィスコンシン大学ホームページ
<http://www.wisc.edu/> (11010年七月三十一日取得)

* 34
"Top 10 Commencement Speeches," *Time Magazine*, <http://www.time.com/time/specials/packages/completilist/0,29569,1898670,00.html> (11010年七月三十一日取得)

四、ブラッドリー・ウィットフォードのコメントスピーチ

(二〇〇四年五月十五日 ウィスコンシン大学にて)^{*35}

僕も大根役者だった

ブラッドリー・ウィットフォード
翻訳 遠藤昌子・小笠原はるの

やあ、マディソンのみなさん、やっぱりこの町はいいね。これから卒業生諸君の薫陶をたたえさせていただく(写真^{*36}^{*37}^{*38}17、18、19)。

僕の仲間内では、コメントスピーチなんて、誰もやりたがらない。だって、わざわざした大きな会場で、誰も話を聞いてくれないもの。卒業生は自分の方が役者なんかより賢いと思っているし。それに、前の晩なんか遅くまで卒業祝いのどんちゃん騒ぎをしたんだろし、僕が泊まったホテルでもうるさかったよ。

それに、君たちは、お祝いにかけつけてくれた親戚に気を使ってくたくただろうね。本当は君が主役なのに、まわりだけが盛り上がっている。

正直なところ、自分の卒業式で誰がスピーチしたかなんて覚えていない。周りを見渡して、こんなにたくさんさんの若い美人に囲まれるのは、もうないんだろな、と思ったものだ。その予想はどんぴしゃり。しかも、ハリウッドで、女優たちと仕事をしていてそうなんだから。

* 35

"Charge to Graduates," Spring commencement: Transcript of address by Bradley Whitford, May 15, 2004, *News*, University of Wisconsin-Madison.

<http://www.news.wisc.edu/9829>
(二〇一〇年七月二十八日取得)

* 36 前掲

* 37

Spring 2004 commencement photos, May 17, 2004, <http://www.news.wisc.edu/9835>
(二〇一〇年七月三十一日取得)

* 38

ウィスコンシン大学マディソン校、ウィキメディア
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%82%B9%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%82%B7%E3%83%B3%E5%8A%47%E5%AD%A6%E3%83%69%E3%83%67%E3%82%A3%E3%82%BD%E3%83%B3%E5%A0%A1> (二〇一〇年七月三十一日取得)

だから、僕のスピーチもすぐに忘れられるだろうし、当然僕が何者だったか思い出してもらえない。

ちょっといっとくけど、コンコーディア・カレッジの今年のコメント・スピーカーは、ジョージ・ブッシュ大統領だった。コンコーディアの学生は五千人あまりしかないのに、この大学は四万人。そうなんだ。この美しい会場に疑問が渦巻く。そう、どうしてもっと大物と呼ばなかったのかと。

ウィスコンシン大学ほどの伝統と名声を誇る大学なら、正真正銘の世界的人物を呼べるはずなのに、例えば、隣の町長さんとか。それなのに、こんなサーカスのピエロみたいなテレビタレントを呼ぶなんて。僕だってわからない。みんなも何か違うと思ってやるよね。その気持ち、わかるよ。

でも、一つだけいっておきたいのは、コンコーディア・カレッジはぼったくられているんだ。ブッシュはスピーチなんか書いていない。書くわけがない。スピーチを用意したのは、スピーチライターと呼ばれるホワイトハウスの黒子たちで、ブッシュは壇上にあがって、朗々とスピーチを読み上げ、終わったら、税金で買った専用ジェット機で夕日の彼方へと飛び立つのさ。

僕がリベラルだと知っている人は、この機会をちゃっかり利用して、こんなどうでも良いことで大統領を攻撃していると思うだろうけど、そのとおり、図星だ。でも、神に誓っている。自由主義世界のリーダーたるアメリカ大統領はコメント・スピーチを一字一句書いていない。書くわけがない。

でも、僕は自分でスピーチを書いた。だから、僕でがっかりしたかもしれないけど、



写真17 ウィスコンシン大学で、卒業スピーチをするウィットフォード

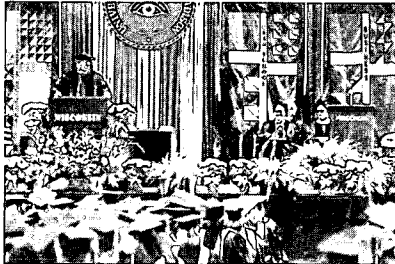


写真18 2004年のウィスコンシン大学卒業式

本人が書いたスピーチだというところが救いだね。この原稿を書くにあたって、大変だったのは、何を話すか、ということ。コーヒーをがぶ飲みしながら考えたんだけど、僕が得意なことといったら、子作りと演技しかない。だから、演技について話そう。

ご承知のように、俳優ってものは、報われない職業なんだ。ガキンチョや犬猫、ノータリンの若造が、ときには見事な演技をするもんだから、年がら年中へこむね。人生甘くない。

でもいいこともある。高校の演劇部から始まって、プロになるころには、大根役者も卒業できる。チンパンジーだって練習すれば文字をタイプ出来るようになるからね。それに、演技を通して、人生のヒントも学べる。僕が学んだことは六つ。「人生に必要なことは、オーディションでの赤っ恥から学んだ」とでもいおうか。

一つ目。好きでやっていれば、結果はついてくる。役者になろうと夢見るのではなく、演技したいと思うこと。何かになりたいたいと思うのではなく、何をやりたいかを考えるんだ。作家を目指すのではなく、書きたいと思い、医者を目指すのではなく、人を治したいと思い、教師を目指すのではなく、教えたいと思い、政治家を目指すのではなく、社会に尽くしたいと思うことだ。お金だけでは、生き甲斐は感じられない。何かをするその過程こそが楽しくなければいけない。

二つ目。当たり前のことだけど、準備は万全に。例えば、ブロードウェイでの初演日、緊張がちがちなのか、舞台を楽しめるのか、どちらかだ。準備を十分しておくと、



写真19 ウィスコンシン大学学生会館

失敗への不安をかき消すことができる。準備の過程を楽しむんだ。

三つ目。やることさえやったら、あとは流れにまかせよう。お芝居でも人生でも、一番わくわくするのは、予期せぬことが起きたときだ。その機会を逃さないこと。

これまでは君たちは学生だったから、先生を喜ばせるために勉強や宿題をしてきた。いい学校に入る競争は熾烈だから、真面目な指示待ち型の人間を生み出しがちだ。でも君たちには、もっと力があるはずだ。これからは、心の中の声を聞きながら、どんな道を切り拓いていける。今の世の中にある難しい問題を解決するためには、梓にとられない考え方が必要だ。

四つ目。君たちには、自分が思っている以上のものがある。腕にとまった蚊を叩く君は、残忍なりチャード三世。夕映えの湖に立つ恋人同士を見て、心を熱くした君は、ロマンチストのロミオだ。

別にみんなに役者になってほしいといっているわけじゃない。そんなのは僕だけで十分だ。でも、自分の可能性は試すことだ。僕だって、仕事柄ひょうきんにしていて、仲間とわいわいしている、実は人見知りなんだ。僕たちはみな、周りのせいで思うようにならないと苛立つけど、本当に自分を縛っているのは、自分なんだ。

ネルソン・マンデラは、コメンスマントスピーチで次のようにいっている。

私たちは力がないと思います。しかし、私たちには、計り知れないほどの力が

あるのです。それは隠していても、隠しきれないものなのです。私たちは、才色兼備でありうるのです。実際、誰もがそうなのです。みんな神の子ですから、小さく生きていては社会の役に立たないのです。

ネルソン・マンデラなんて引用しちゃって、かっこつけちゃったね。

五つ目。人の話をしっかり聴くこと。役者にとって一番難しいのは、観客との一体感を生み出すことだ。大根役者は脚本通りに演じようとするが、それでは観客の心をつかめない。人生でも同じことがいえる。聴くことは決して受け身なことではない。人の言葉に耳を傾けることで、自分以外の世界を知り、人とながれる。人の話がちゃんと聴ける人は、恋愛でも仕事でも社会でも、人との関係をうまく築ける。

最後に六つ目。行動しよう。君が感動したあの物語の主人公も、誰かが描いたあこがれのヒーローも、実際に行動を起こしている。僕たちがやり遂げたどんな小さなことも、何らかの行動から生まれている。君たちも決めなければいけない。周りのせいにして何もしないでいるのか、行動を起こして人生のヒーローになるのか。実際に動くことで、無気力、無関心、あきらめの境地から脱することができる。でも、行動には失敗がつきもの。是非そこから学んで、先に進んでほしい。君の人生はパソコンのゲームではなく、実際にプレーしたかどうかで評価される。

君たちの多くは二〇〇〇年の秋に入学した。四年前には想像もしていなかった世界に

君たちは飛び出していく。不穏な空気が個人、国家、地球環境を取り巻いていて、先に進めない状態だ。そんなときこそ、君たちの出番だ。

こんなたいしたことのないテレビ俳優のスピーチをたよりに、君たちは社会に羽ばたいていく。君たちに望むのは、やっていることを楽しむこと、やりがいのある仕事を一生懸命すること、社会の問題を知ること、自分の可能性を試すこと、人の話をよく聴くこと、そして思っているだけではなく、行動すること。これはテレビドラマではない。もっと困難と責任が伴う。

君たちが政治的にどんな立場でも、国の将来がかかっているような問題には関心を持つてほしい。ハリウッドでは、何も知らないくせに口を出すなといわれる。でも、口封じは国のためにならない。そっちこそ黙れといいたい。

大切な問題については特にそうだ。第二次世界大戦の英雄だったジョージ・マクガヴァン元上院議員はこういつている。「最高の愛国心は、盲目的に政府のやり方に従うのではなく、自国をよりよいものにしたいという熱い思いなのだ」

いつだって市民の力でこの国の展望は開けてきた。はっきり言っておくけれど、投票を棄権したり、将来に影響する世界の緊急課題に無関心でいようとするとしたら、民主主義国家に住んでいる意味がない。一部の人の手によって国が操られることになってしまう。つまり、民主主義は始めからあったものではなく、人々が作りあげたものだということ。人生におけるあらゆる局面で、行動を起こしてほしい。

とはいっても、芸能人になろうとしないでくれ。若い人がどっと押し寄せると僕の仕事が奪われるからね。

むしろ、君たちには芸能人ならぬ行動人であってほしい。行動人になるんだ。何かが起こるのを待つのではなく、何かを起こすんだ。未来を作るんだ。希望を叶えるんだ。愛をあふれさせるんだ。どんな神を信じようと、聖なるものを敬い、ただ恩恵を待つのではなく、自分ができることをするんだ。この場で、この瞬間に、自らの手で恩恵を勝ち得るんだ。

最後に一つ話したい。父親になって学んだことだ。僕たちは、先人が昔々植えた大木の葉陰にいる。何世代もの人々が希望を持って生きてきたおかげで、この素晴らしい今がある。赤ん坊が誕生し、家族が作られ、大学が築かれ、学校や地域が人を育んできた。さまざまな素晴らしい宗教と幾世代にもわたる家族の歴史があった。

時代を越えた命の灯は君たちの中でこの瞬間も赤々と燃え盛っている。君たちの卒業を祝うとともに、すべてのものに感謝しよう。そして、幸運に恵まれた君たちには、果たすべき義務があることも忘れてほしくない。赤々と燃えるこの命の灯を絶やすことなく、これから生まれるものたちに手渡すのだ。

二〇〇四年度卒業生のみなさん、おめでとう。社会に出て、種を蒔くのだ。ありがとう。

五、ボノについて

ボノはイギリスのロックバンドU2のリードヴォーカルである。バンドの多くの楽曲はボノが手掛け、彼の歌う社会的なメッセージと荒削りなボーカル、激しいパフォーマンス

ンスで、U2は世界有数のバンドの一つとなった。ボノはまた国際的な慈善活動家としても有名である。ロックスターとしての知名度を利用して、アフリカにおける貧困や病氣といった難題に立ち向かってきた（写真20）^{*39}。貧困は解決できると心から信じ、エイズの蔓延を食い止めようと何億ドルもの資金調達に駆けずり回る。世界各国の首脳や財界人にアプローチして、意識啓蒙を図ろうとする（写真21）^{*40}。ノーベル平和賞の候補に三度も選ばれたボノはいう、「音楽は世界を変えられる。なぜって、音楽は人を変えられるからだ」^{*41}。いったいなぜミュージシャンのボノがそのような大志を抱くに至ったのかをみていきたい。

歌になっていない物語

ボノの本名はポール・デビッド・ヒューソン。「BONO（ボノ）」は、でラテン語の「Bonavox」（良い声）からきている。^{*42}^{*43}一九六〇年にアイルランドのダブリンで生まれるが、育った環境は一般的なアイルランド家庭とは異なっていた。父親はカトリック、母親はプロテスタント。深刻な宗教的対立下にあるアイルランドにおいて、これは考えられないことだった。相反する宗教が家庭に混在していても、平和に生きられる。宗教の違いを問題と捉えない視点をボノは自然と身につけていった。

青年時代のボノは家族愛に飢えていた。彼が十四歳の時に母親が病死したのだ。母親のことをもっと知りたいと思って、口を閉ざす父親。母親が他界したのち、ボノと父親はうまくいかなかった。二人の生き方にはあまりにも分かち合えないものが多かった。ボノの父親はオペラを愛していた。素晴らしいテノールの歌声を持っていたが、貧

* 39

solcomhouse

http://www.solcomhouse.com/bo
no.htm (二〇一〇年七月三十一日
取得)



写真20 2002年米国財務長官ポール・オニールと共にガーナ、南アフリカ、ウガンダ、エチオピアを訪れ、支援活動をするボノ

* 40

Time, December 26, 2005/January
2, 2006



写真21 2005年ビル・ゲイツ夫妻とともに、タイム誌Person of the Year（今年の顔）の一人として選ばれたボノ

乏で楽器を習うこともできず、オペラ歌手への道は閉ざされていた。ボノが音楽の世界へのめり込み始めたとき、父親は全くといっていいほど喜ばなかった。自分の息子が成功するとは思っておらず、むしろ、息子も自分と同じようにうまくいかないで終わると思ひ込んでいた。父親の否定的な考えはボノをひどく傷つけることになった。

少年にとって、ティーンエイジャーの頃は、父親が自分の敵になったように感じるものである。そういうときは、父親から逃げ出し、母親の胸に向かうこともある。ボノも出来ればそうしたかった。しかし、母親はいなく、そのことが激しい怒りを生み出した。「空虚さ」、「空っぽの家」、「孤独」に対する怒り。

学校から帰っても、そこは家庭じゃないんだ。彼女はいつてしまった。僕らの母は亡くなった……僕は見捨てられたように感じて、恐かった。恐怖は怒りにすぐ変わ
*44
ると思う。その怒りは今も僕とともにある。

そしてボノは痛感する。「僕には人が必要だ。人に囲まれていたい」と。ボノにとつて、友人たち、特にバンドメンバーに頼るのは、生き残りの問題だった。二言目には「夢を見るな！ 夢を見ると、幻滅するぞ」という父親に向かって、ボノは必死に抵抗し、自分に言い聞かせる。「夢を見る。大きな考えを持って。それこそが僕のやりたいことだ。」ボノは自分自身にも、U2にも大きな目標を課すことによって、父親との関係、やりきれない家庭環境から逃れようとしたのだった。

* 41

U2公式ホームページ
<http://www.u2.com/> (二〇一〇年七月三十一日取得)

* 42

Sheelegh Mathews, *Remarkable People: Bono, U2's* Publishers, Inc., 2008

* 43

Bono, Wikipedia
<http://en.wikipedia.org/wiki/Bono>
no (二〇一〇年七月三十一日取得)

* 44

ミッシュカ・アサイアス『ボノ・インタビューズ』、五十嵐正訳・監修、リットーミュージック、二〇〇六年、二十五頁

歌になった物語

ボノ率いるU2のメンバーは四人。高校で出会ってバンドを組んだ彼らは、最初から世界を目指していたが、ロンドンの若者が流行だけを追いかけていることにうんざりしていた。「現代の音楽には魂の発話が欠落している」彼らは抽象的で深遠な議題に面と向き合いたいと思っていたのだ。U2の音楽には何かに突き動かされたような不器用さがある。国内外の社会・政治の問題を強く提起する詞を、最大かつ最も腹の底に響くような騒音にのせることによって、最良のものが得られると信じていた。それはまさしくパンク思想で、七〇年代後半に見られたものだ。音楽評論家のミッシュカ・アサイアスは、ボノに対するインタビューでこういつている。「彼らはヒップなグループでいるには、あまりにヒップでなかったし、ヒップでないにはあまりに挑戦的だった」^{*45}

一九八七年にアルバム『ヨシユア・トゥリー』が発売され、ほとんどすべてのチャートでナンバー・ワンになると、毎回新しいレコードを作るたびに、極端なまでの成功として跳ね返ってくるようになる^{*46}（写真22）。U2を新しいローリング・ストーンズだと考える人も出て来た。九〇年代以降、U2はロックの可能性をさらに押し広げていくが、そこにメディア化した自身をいかに客体化し、正気でいられるかというあがきが感じられるようになった。そのあがきこそがロックであり、人生そのものだと思っていた。実験的な音、流行の音、なんでも挑戦するようになっていた。反戦のメッセージ性が高く、生真面目さが先に立っていたアルバム『War』を出しながら、巨大化したビジネスの中心にいるプレッシャー、そして絶望や欲望を背負って、理念とそれらの整合性をどう取ろうかともがいていた。

* 45 前提、十四頁

* 46

U2公式ホームページより

<http://www.u2.com/soundandvision/index/audioset/> (二〇一〇年

七月三十一日取得)



写真22 ヨシユア・トゥリーのCDジャケット

そのような中、ボノは常に歌によって自分の思いを吐き出していた。

『原子爆弾解体新書』ハウ・トゥ・デイスマントル・アン・アトミック・ボム』は、二〇〇四年にリリースされたU2の十一枚目のアルバムで、グラミー賞の最優秀アルバム賞、最優秀ロックアルバム賞を授賞している（写真23）。ここでの原子爆弾とは父親のことをいい、死んだ父への想いを歌にしていることがわかる。

ぼくらはいつも喧嘩していた／あなたとぼく……それでいい／ぼくらは同じ魂なんだ／ぼくは聞きたくなかった……おまえがそんなにも俺に似てなけりゃ、もっとおまえを好きになれるのに……そんなことは聞きたくなかった
どうか聞いておくれ／どうしても知ってほしい／あなたは独りぼっちで逝くことなんてなかった^{*48}

「サムタイムズ・ユー・キャン・メイク・イット・オン・ユア・オウン」はボノから父親へのスワン・ソング（最期の作品）だという。

タフなんだ、負けない自信があるんだね／僕にもみんなにも、強いんだって言ってまわってるもんな／闘う必要はないのに／いつも正しい必要はないのに／今夜はあなたに向けられたパンチを何発か僕に受け止めさせて／聞いてほしい。あなたに伝えたいんだ／一人で頑張る必要はないってこと／時には一人じゃ無理なことがある

* 47

U2公式ホームページより
[http://www.u2.com/soundandvision/index/#\(20010731日取得\)](http://www.u2.com/soundandvision/index/#(20010731日取得))



写真23 How to Dismantle An Atomic Bomb SCDジャケット

* 48

『原子爆弾解体新書』ハウ・トゥ・デイスマントル・アン・アトミック・ボム』U2、ユニバーサルインターナショナル、二〇〇四年

歌おう、あなたのために歌っている／僕の中でオペラが鳴っているのはあなたのため／なんとかしてあなたに知ってもらわなきゃ／家が建っているだけでは家庭にならないって／ここに僕を一人で置いていかないで／時には一人じゃ無理なことがある^{*49}

このアルバムで、ボノはこれまで自分が親しんできた世界への慈しみや痛み、親愛の情を歌っている。ロックで何が体现できるのか。組織のなかでなにをやってきたのか？ 家庭のなかでなにを残してきたのか？ 社会のなかで何を成したのか？ 世に何を問うたのか？ 友人に何を伝えたのか？ 老いた父や母に何を言ったのか？ ここに見られるのは、八〇年代から二〇〇〇年代までを牽引してきたボノの歴史、それも成熟とともに変化するボノの歴史である。ボノはそうやって、自分を変え、歌を歌いながら、世界と、その世界を見る目を変えようとしてきたのだった。【小笠原】

六、ボノのコメントスピーチ

(二〇〇四年五月十七日 ペンシルバニア大学にて)^{*50}

ロックン&アクト！

ボノ
翻訳 遠藤昌子・小笠原はるの

*49 「サムタイムズ・ユー・キャン・ト・メイク・イット・オン・ユア・OWN」前掲

*50

* Commencement Address by Bono, co-founder of DATA (Debt AIDS Trade Africa), and lead singer of U2. May 17, 2004, *Almanac Between Issues*, May 19, 2004 <http://www.upenn.edu/almanac/between/2004/commence-b.html> (二〇一〇年七月二十八日取得)

こんにちは。ロックスターのボノです^{*51*52} (写真24、25)。

そんなに歓迎されると、つい××××とかイヤラシイ言葉を叫んじゃいそうだよ。親御さんはきっと心配だね。僕がファッ○とか四文字語を乱発すると思って。でも、大丈夫。せいぜいこの大学の名前PENNぐらいだ。それに僕のBONOか。でも、イヤラシイって点では、ロックスターの僕が学者気取りでこんなマントを羽織っているのは、別な意味でかなりイヤラシイ。例えていえば、イギリスの王族みたいにタータンチェックの服を着ているそこのペット犬と良い勝負で、みっともないし、犬も人も、賢そうな服を着りや賢くなるってわけじゃないから。

U2のおかげで、今の僕がある。バンドメンバーと一緒になんだって平気だった。七年前に、U2のみんなとここに来たときには、ちょっと風変わりないでたちだった。ミラーボールのスーツを身にまとい、くるくると回転するレモンに乗って、高さ十二メートルの場所から登場したときた。宇宙船とディスコとプラスチック・フルーツが合体したって感じさ。

それが気に入られて、そのときの理事会が僕に博士号を授与しようと決めたんじゃないかな。なんてたって法学博士。なんと名誉なこと。でもいいのかな。法学博士といいたがら、思い出すのは僕が破った法ばかり。憲法、州法、民法、そして三十年前には道路交通法。僕の履歴書はまさに犯罪歴。あまたの法を破ったし、危ない橋を渡ってきた。実際にやらなくても、罪深いことを考えてきた。神様、ごめんなさい。そして許してくれてありがとう。だからといって、博士号までもらっていいのかい？ 尊敬される偉人になってしまっているのかい？ だとしたら、悪も償われるということだね。

*51 前掲



Bono

写真24 ペンシルバニア大学で博士号を授与されたボノ

*52 前掲



写真25 ペンシルバニア大学のキャンパス

謹んで榮譽に預かることとするよ。イギリスの作家兼弁護士のジョン・モーティマーはこんなことをいつている。「法律家に才気は必要ない。要るのは、良識ときれいな爪だ」少なくとも僕は爪だけはきれいだ。

僕は大学を出ていない。いろんなところに出入りしたけど、大学は縁遠かった。七〇年代にダブリンでロック小僧として育ち、音楽がすべてだった。世界への扉だった。十七歳のとき出会ったパンクロックバンド「ザ・クラッシュ」はまさに革命だった。彼らは「ギターによる革命」をしていて、僕もそれに強い影響を受けた。みんなと一緒に反体制というかつこよさに酔っていた。ブーツを履いていても、デモ行進はしなかったし、火炎瓶を振りかざしながらも、議会に乗り込むことはしなかった。最近まで僕も何もなかった。

変化にはとてつもない時間がかかる。じりじりするほどの鈍い歩みだ。政治や社会がなかなか良くならない一番の原因は、フリーメイソンでも、政府のせいでもない。踵を鳴らして歩く独裁者のせいでもない。それはみんなの無関心とか口先だけのお役所言葉、例えば「善処します」というカフカ的な迷答から来ているんだ。

例えば、世の中を変えたいロッカーがマレットヘアにするのは、ちょっとずれているね。おっと、マレットヘアって何のことかわからないっていうんなら、卒業するにはまだ早いな。授業料を返してもらった方がいい。リードヴォーカルにとって、長髪のマレットヘアは間違いなくドラッグよりたちが悪い。そう、僕も八〇年代はマレットヘアだった。かっこつけるだけじゃなくて、真剣に訴えなければ、音楽で世の中の人たちを動か

することはできないんだ。なんだかんだあって、そんなことを学んだね。

おっと、こちらで教授先生様たちは、苦笑しているね。ご立派な博士号なんかじゃなく、名誉学士にとどめておけばよかったと思っているのかもしれない。こいつ、マレットヘアとかいってるくらいだから、学士で十分だろうって。ヘアの話なんかして、いたい何のつもりなのか？ ごもっとも。僕はここで何をいおうとしているんだらう。君たちからしたら、何を聞きたいのかね？ だって、アイビーリーグを卒業するのに、こんな終わり方をしたいのかい？ 四年間も由緒ある学び舎で真剣に学んできたというのに、どこかいスタジアムで、アイルランドのロック野郎のスピーチを聞かなければならないんだ。それも自分についての話ばかりだ。みんなここで何をしているんだい？

そういえば、新聞で読んだんだけど、先週、セサミストリートに登場するカエルのマペットが、どこやらでコメンズメントスピーチをしたんだって。それを聞いた学生が文句をいった。「四年も真面目にやってきたのに、カエルにスピーチされるとは！」君たちも、僕のスピーチを聞くために頑張ってきたようなものだね。四年間かけてあらゆる知識を詰め込んで、頭はこんがらかん、親はすっからかん。で、これからどうするのかい？

社会は簡単には変えられない。変革には志が必要だ。この大学にはそういった志をもった人物がいる。大学創立者であるベンジャミン・フランクリン、卒業生のブレナン最高裁判事、学長のジュディス・ロダンがそうだ。ロダン先生には、ほればれするね。みんな考えや理想を実現するために、社会に貢献してきたんだ。

ここで質問だ。その志って何なんだろう。君の目指すものは？ 卒業したら、自分の

個性や知性、収入、時間をどう活かすんだい？

アイルランドにブレンダン・ケネリーという偉大なる詩人がいてね。彼のユダをめぐる叙事詩の一節がとても印象に残っている。「時代を進めるには、時代を暴け」っていうんだ。で、時代を暴けてどういうことだろう。

それは、社会の欺瞞や間違いやおおっぴらにまかり通っているインチキな道德観を暴くことだ。核心となる問題を見つけて、それに真っ正面から向き合うことだ。

どの時代にも間違った規範があった。そのときは当然だと思っても、あとになって間違いだとわかる。奴隷制もその一つだった。あまりに冷酷で、非人間的な制度だ。その制度の間違いを訴えた人が、その時代に最も尽くしたといえる。奴隷制反対を訴えたベンジャミン・フランクリンもその一人だ。

この人種差別の問題は、公民権運動のおかげで、撤廃された。時代の仮面が剥がされたのだ。そのきっかけとなったのは、今から五十年前、一九五四年五月十七日だった。ブラウン対教育委員会の判決で「分離すれど平等」といったそれまで正当化されてきた方針を最高裁が違憲としたんだ。

それから五十年後の今日、暴くべきものは何だろうか。見てみぬふりをしていること、今の時代で間違っていることはなんだろう。この大学を卒業してから、やるべき価値のあるものって何だろう。それはシンプルなことかもしれないね。

例えば、人類みな平等っていわれているけど、実現は無理だと思っていないかな。できないよ、とか、大変だよとか。それぞれ考えがあるかもしれないけれど、僕は平等は実現できると訴えたい。それが身にしまったのが、アフリカなんだ。

アフリカに行ってみると、平等、平等ということばだけでは、から念仏を唱えているに過ぎないとわかる。みんなアフリカの惨状を知りながら、どこか他人事のように思っている。それなのに、わたしたち皆平等です、なんて、きれいごとだよ。僕たちの良心さえ疑われる。

一九八五年にここフィラデルフィアで画期的なイベントがあった。アフリカ難民救済のチャリティーコンサート、ライブエイドだ。そのコンサートのあと妻のアリとエチオピアに行った。一ヶ月間の滞在のあいだに、人生が変わる出来事があった。朝起きると、霧が晴れてきて、何千もの人たちが夜通しかけて、僕たちが担当している難民キャンプの配給所に食糧をもらいにやってくるんだ。あるとき、一人の男がかわいらしい男の子を連れてやってきた。現地語で話しかけてくるものだから、何をいつているのかわからず、看護士に通訳してもらった。「どうか子供をもらってほしい。いい子だから。」僕が当惑していると、彼は続けていった。「この子をもらってほしい。もらってくれないと、死んでしまうんだ。あなたの国に行けば、教育も受けられるし。」僕は断るはかなかった。難民キャンプの規則だったんだ。結局、彼のそばを離れたけれど、その出来事は忘れられなくて、その親子のことはずっと頭にあった。その体験があって、僕はこういった活動にたずさわるようになり、今ここに立っているわけだ。

このようにして、僕はロックスターにして、大義を振りかざした思いやり運動の旗手になってしまった。カッコ悪いったらありやしない。でも、これは思いやりの問題じゃない。生死の問題だ。毎日七千人ものアフリカ人がエイズのような予防も治療もできる病気で死んでいる。一日一ドル以下で暮らしている人々は、一度病気になるってしまった

ら、なす術もなくなる。これって、思いやりで解決できない、生死の問題だと思わないか。

不公平な貿易の取り決めや債務のせいで、アフリカの人々は貧困に陥り、怒りを募らせている。大義をいつている場合じゃない。まさに緊急だ。ライブエイドを発端として、僕は人道支援という世界に足を踏み入れた。でも、二十年がたって、これだけでは解決できないと思うようになった。食料支援と人間の尊厳の実現、この二つには大きな隔た

りがある。アフリカは平等を求めている。

アフリカ人もアメリカ並みの生活をするというのは、夢物語だ。金がかかる。ビジネススクールの卒業生は、式次第の裏に計算を始めたね。僕は数字って聞くとぞっとするけど、君たちは違うんだろうね。

確かに、アフリカの苦しさの大きさと、それを良くするために求められるものを見ると、どうせ全部できないくらいなら、手をつけない方がいいと思いがちだ。願っているだけでは、エイズや貧困がなくなれないからだ。願ったって、太陽は西から昇らない。こんなとき、いったい自分たちに何ができるのかを、考えなければならぬ。

意外とたくさんできるものだ。政治腐敗から自然災害まで、アフリカには実にいろんな問題があって、すべては解決できなくても、出来ることをやればいい。例えば、借入金の利子の軽減や不利な貿易条件の改善、情報格差の是正、特効薬の権利を無償で譲渡するなど、なんだって取り組める。出来るんだったら、やるしかない。そうだろう。

これは机上の空論ではない。ロックン・アクト、行動だ。僕たちの世代が初めて遠い

アフリカの貧困と病気に目を向けた。なんでも有り余っているこの世の中で、子供たちがお腹を空かせて死んでいる。僕らこそ、真剣にそんな貧困にピリオドを打とうとしている。

そう、最初の世代になれるんだ。時間はかかるかもしれないけれど、ばかばかしい貧困はなくせるんだ。事実、経済学者も認めることだけど、金がかかるといっても、ヨーロッパを共産主義とファシズムから救ったマーシャルプランよりは安いし、繰り返されるテロに対応するよりは費用がかからない。経済学部の子供さんたちなら、よくわかるよね。

僕のいうことは、絵空事じゃない。それなのにどうして腕まくりをして、取りかからないんだろうか。おそらく、打つ手があるって認めてしまったら、何か手を打たなきゃいけないからだろう。僕たちには今までにないほどのノウハウと資金と特効薬がある。それなのにどうして手をこまねいているのだろうか。やる気の問題ではないだろうか。

実は昨日、ここフィラデルフィアにある自由の鐘の広場で、多くの人たちに出会った。宗教を持つものも、持たないものもいた。僕たちがやっている、「人類みな一つ!」というエイズとアフリカの貧困撲滅を掲げた運動に、賛同する人たちだった。彼らはそれが実現できると信じていた。目指すものは同じだった。僕は感動した。

平等は実現できると、僕は信じている。優しさだけでやっているわけじゃない。髪に花を指した六十年代のヒッピーじゃないから、ビーチサンダルははかない。パンクロックあがりの僕はクラッシュのアーミーブーツで、行動するんだ。そして、君たちの世代なら実現できるって僕は信じている。無理だっていうんなら、理由をいってみてほしい。

ラジオでも、テレビでも、理想なんて語らない。あふれているのは、理想なんて無理という冷めた態度で、誰もが作り笑いをしながら、知ったかぶりして、聞き流している。僕だって、昔はそうだった。世間ばかりじゃなく、大学においても、理想は包囲網の中にある。消費主義とか、自己中とか、あらゆる無関心主義に攻撃されているようなものなんだ。お笑い主義、オタク主義、学歴主義、いろいろなあつて並べたらきりがない。僕たちに必要なのは理想を語るジョン・レノンなのに。

ただ、理想だけ追いかけていると、君たちのご家族が心配するよね。それなら、アメリカ主義はどうだろう？ まだいいかな？ 最近じゃ、アメリカ主義なんて流行っていないし、はっきりいえば、ヨーロッパでも人気がない。この大学のようなアイビリーグのキャンパスでは、受け入れられてないし。でも、それは君たちがどうアメリカ主義をとらえるかによって、変わってくるものなんだ。

僕はこのアメリカという国が大好きだ。アメリカに首ったけという、しつこいファンかもしれない。アメリカの理想のメッセージをそのまま受け止めて、「おまえな、理想をうたっているんだったら、それを貫けよ！」とストーカーのようにまとわりつく、こうるさいファンなんだ。

もちろんアメリカの独立宣言も憲法も読んだ。素晴らしい内容だ。昨日、独立記念館に足を運んでみてわかったんだ。アメリカは素晴らしい国だけど、それは理念を追いつめているからだ。僕の故郷のアイerlandもいい国だけど、理念によって作られてはいない。何かを実行するには責任が伴うが、アメリカは、犠牲を払ってでも理念を追求してきた。アメリカの理念の一つが、人は平等であるという考え方だ。平等は何よりも大

切だが、実現は難しい。

それから、僕がアメリカが好きなのもう一つの理由は、できないことはない、という姿勢だ。「ほら、あそこのお月さんに、ちょっと出掛けて、石ころでも拾ってこないか」そんなアメリカの精神が好きなんだ。

一七七一年のことだけど、アメリカ建国の父フランクリンはアイルランドとスコットランドに三ヶ月滞在した。英連邦に属しているこの二国を観察して、アメリカも英連邦に入るべきかを見極めにいったんだ。

フランクリンは、アイルランドにいて愕然とした。イギリス政府はアイルランドに貿易規制をかけていたし、イギリスの不在地主はアイルランドの小作農を搾取していた。農民たちは、フランクリンの言葉でいうと、「泥と糞でできた吐き気をもよおすような豚小屋に住み、ぼろを着て、イモだけで命をつないでいた」それは、アメリカが目指す姿からはほど遠かった。

そういうわけで、アメリカはイギリスと戦い、独立を勝ちえ、そのアメリカを手本にして、アイルランドもイギリスから独立を勝ち取ったのだ。

昔、飢饉が起きて、主食のイモがなくなったときに、老若男女を問わず何百万ものアイルランド人が、荷物をまとめて船に飛び乗り、アメリカに向かった。以来、いまだに多くのアイルランド人が移民としてこの国にやってきている。イモだって山ほどあって、もう飢える心配もないというのにね。もし、ここにアイルランドの人がいたら、教えよう。「飢饉はもう終わった。いつでも帰って来ていいよ」なのに、どうして人々は移民し続けるのだろうか。それは、アメリカの理念が好きだからだ。

アメリカの快活さ、自らの手で運命を切り拓くスピリット、乗り越えられない障害はないと思うその精神が好きなんだ。おっと、ヘリコプターの音が聞こえてきた。まさか、イギリス人が攻撃しに来たんじゃないよな。冗談はさておき、どんな問題でも解決できるとしたら、いったい僕たちは、何にエネルギーと知性をつぎ込めばいいんだろう。

どの時代にも急を要する課題がある。今はアフリカの問題だ。ほかにも問題はあられるけど、これは最優先されなければならない。平等のために、十分の努力を尽くしたか、その成果が明らかになるのが、アフリカだ。

でもそれ以外のことでいいから、何か問題に取り組んでほしい。自分の汗を流して、苦しみながらも勇気を奮い起こそう。そして、最後に一杯ひっかけてから、雄叫びをあげて、突き進むんだ。

頭の中に浮かんだメロディに導かれて進もうよ。親にも教師にも言い訳なんかしないでいい。わかってもらえなくてもいい。僕だって、若いときは、未来はもう決まっていって変えられないと思っていた。ちょうど、前の住人が引っ越した家に、移り住むだけだと。

でも、そうじゃないんだ。未来は定められていない。変えることができるんだ。あばら屋だろうが、マンションだろうが、自分で自分の家を建てるができるんだ。おっと、ここで初めてスピーチに比喻ってものが登場したね。

いいたいことは、世界は君たちが思っているよりも、変えられるものだということ。君たちによって形づくられるのを待っているんだ。僕がフォークシンガーだったら、ピーター・ポール＆メアリーの「天使のハンマー」を歌いだすところだ。「もし私がハンマーを持ったら」ってみんなで大合唱というところさ。でも僕はパンクロックあがりだから、

天使じゃなくて、地獄のハンマーなんて方があってるだろうね。

君たちが手にする学位は、万能ハンマーだ。それを使って、何かを築き上げてほしい。アメリカ第二代大統領のジョン・アダムスがフランクリンについてこういていた。「彼は、周囲が手をこまねいているときでも、思い切った手段に訴えることを辞さなかった」

君たちも今こそ思い切った行動をとるときだ。主役は君たちだ。ロックン・アウト！

〔参考文献〕

アエラ「ドミンゴが演じる人生」朝日新聞社出版局 二〇〇四年十二月六日

イスラエルオペラホームページ、<http://www.israel-opera.co.il/eng/> (二〇一〇年七月三十一日取得)

ニューグロープ世界音楽大辞典、講談社、一九六六年

堀内修『オペラ入門』講談社学術文庫、講談社、二〇〇九年

ミッシュカ・アサイアス『ボノ インタヴューズ』五十嵐正訳・監修、リットーミュージック、二〇〇六年

Bradley Whitford Biography, *New York Times*,

<http://movies.nytimes.com/person/75991/Bradley-Whitford/biography>

Sheelagh Matthews, *Remarkable People: Bono*, Weigl Publishers, Inc., 2008

West wing official homepage, <http://www2.warnerbros.com/web/westwingtv/index.jsp> (二〇一〇年七月三十一日取得)